



株式会社フコク(東証プライム:5185)  
2025年5月28日

# 決算説明会

2025年3月期

**Yes, We Do!**

Copyright © Fukoku Co., Ltd.  
All Rights Reserved.

本日は、お忙しい中、株式会社フコクの2025年3月期決算説明会をご視聴いただき、誠にありがとうございます。

本日の説明をさせていただきます株式会社フコク社長の大城でございます。

日頃から、フコク製品をご愛顧戴いている全てのお客様、株主の皆様、私達の企業活動を支えていただいている全ての関係者の皆様方に深く御礼申し上げます。

まずはじめに、当社の中国の連結子会社における不正により、株主・投資家の皆様をはじめ、関係者の皆様にご心配とご迷惑をおかけしておりますことをこころよりお詫び申し上げます。

現在、再発防止策を全社的に進めているところではございますが、二度とこのような事態を起こすことが無いよう、皆さまからの信頼回復に努めてまいります。

本日の説明の順番ですが、資料に基づき説明した後、皆様からのご質問にお答えいたします。

ご質問はチャットにて受け付けますので、ご質問のある方は画面右側より入力をお願いいたします。

それでは、始めさせていただきます。

## Agenda

1. 決算のポイント
2. 2025年3月期実績
3. 2026年3月期業績予想
4. セグメント別・地域別の状況
5. 株主還元
6. 「新中期経営計画2026」取組み状況

本日は、御覧の通り、決算のポイントを簡単にご説明した後、2025年3月期の通期実績、2026年3月期の通期業績予想、セグメント・地域別の状況、株主還元、「新中期経営計画2026」の取組み状況の順番にてご説明させていただきます。

## 1. 決算のポイント

---

# 1. 決算のポイント

## 2025年3月期実績

売上高は、自動車メーカーの生産台数伸び悩みの影響を受けるも、インド、中国の売上伸長及び為替の影響により **増収**

営業利益は、資源価格高騰による原材料費上昇等の影響を受けるも、合理化や変動対応等により **増益**

## 2026年3月期予想

雇用・所得環境の改善等を背景に景気は緩やかな回復が続くと見ている一方、不安定な国際情勢や物価上昇、金融資本市場の変動リスク等の傾向が続くことが想定されることにより **減収**。一方、営業利益は、収益性及び生産性の向上に注力し、**過去最高益を目指す**。

尚、米国の関税措置が当社の事業及び業績に与える影響については、現時点では合理的に見積もることが困難であることから、業績予想には織り込んでおりません。

## 配当

2025年3月期の期末配当金は37.5円。中間配当金37.5円と合わせた年間配当金は75円

2026年3月期の年間配当金予想は85円 **(前年比+10円)** を計画

はじめに決算のポイントですが、2025年3月期は、売上高は、自動車メーカーの生産台数伸び悩みの影響を受けましたが、インド、中国の売上伸長及び為替の影響により増収となりました。営業利益は、資源価格高騰による原材料費上昇等の影響を受けましたが、合理化や変動対応等により増益となりました。

これらを受けまして、2026年3月期の業績予想ですが、雇用・所得環境の改善等を背景に景気は緩やかな回復が続くと見ている一方、不安定な国際情勢や物価上昇、金融資本市場の変動リスク等の傾向が続くことが想定されることにより減収を見込んでおります。

一方で、営業利益につきましては、収益性及び生産性の向上に注力し、過去最高益を目指します。

なお、米国の関税措置が当社の事業及び業績に与える影響については、現時点では合理的に見積もることが困難であることから、業績予想には織り込んでおりません。

2026年3月期は「新中期経営計画2026」の2年目であり、目標を達成すべく、拡販努力、生産工程の合理化、変動対応等の更なる採算改善努力により、全社一丸となって収益力の最大化を目指します。

また、当期の年間配当金につきましては、期末配当金は1株当たり37円50銭となり、中間配当金37円50銭と合わせて年間配当金は75円とさせていただきます。なお、2026年3月期の予想につきましては、連結配当性向30%方針に従いまして、前年差10円増の1株当たり85円を計画しております。

## 2. 2025年3月期実績

---

次に2025年3月期の実績をご説明いたします。

## 2. 2025年3月期実績

### 業績概要（連結）

（単位：百万円）

	2024年 3月期	2025年 3月期	前年増減額	前年増減率
	実績	実績		
売上高	88,847	<b>89,657</b>	+810	<b>+0.9%</b>
営業利益 (売上高対営業利益率)	3,646 (4.1%)	<b>4,721</b> (5.3%)	+1,075 (+1.2pp)	<b>+29.4%</b>
経常利益 (売上高対経常利益率)	4,094 (4.6%)	<b>4,569</b> (5.1%)	+475 (+0.5pp)	<b>+11.6%</b>
当期純利益 (売上高対当期純利益率)	3,050 (3.4%)	<b>2,931</b> (3.3%)	△119 (△0.1pp)	<b>△3.9%</b>

※pp=パーセンテージポイント

原材料費等高騰や一過性の費用増加影響を、合理化・売価反映等で吸収

2025年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム:5185) 2025年5月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

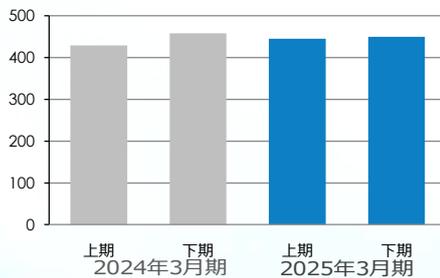
2025年3月期の実績はご覧の通り、売上高は、前年同期比8億円増の896億円と過去最高の売上高となりました。

また、営業利益、経常利益の各利益段階におきましては、原材料費等の上昇分を合理化や売価反映等で吸収し、増益を達成しております。

## 2. 2025年3月期実績

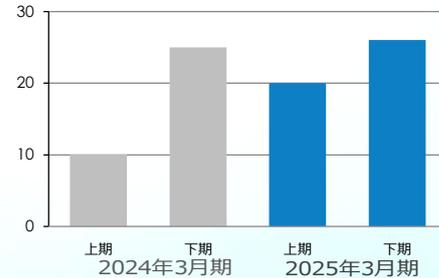
### 実績推移 (連結・半期)

#### 売上高

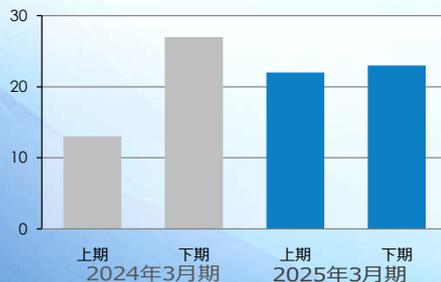


(単位: 億円)

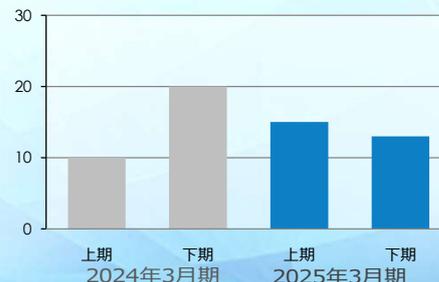
#### 営業利益



#### 経常利益



#### 純利益



2025年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム:5185) 2025年5月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

このグラフは、過去2年間の上期・下期の実績を示したものです。

売上高は、先ほどご説明しました通り増収となりました。

営業利益は、原材料費や労務費の上昇の影響や、DX投資がかさんだものの、売価反映、原価低減活動、歩留まり向上、生産性向上による省人化を進めることで増益となりました。

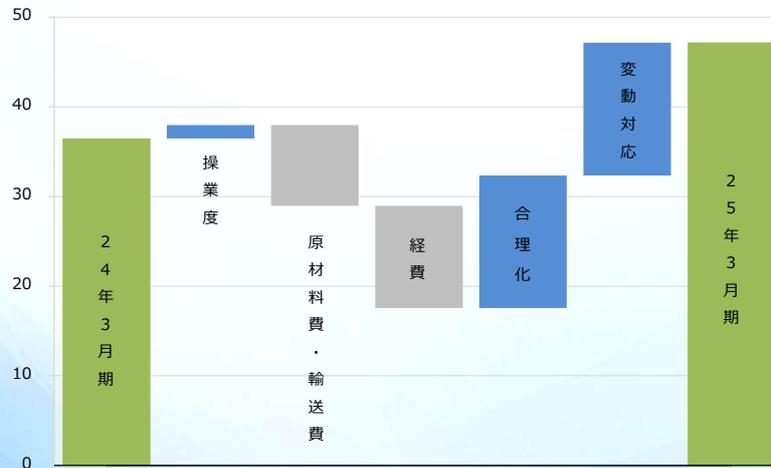
稼ぐ力については、持続的な利益を生み出す体制を確実に構築しました。

経常利益は、中国子会社で発生した不正に関連する一過性の費用等が発生したものの増益となりましたが、当期純利益は、同子会社で発生した有形固定資産の減損損失の影響等、一過性の費用により減益となりました。

## 2. 2025年3月期実績

差異要因\_連結営業利益（前年比）

（単位：億円）



2025年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム:5185) 2025年5月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

このグラフは、連結営業利益の対前年比の増減を要因別に示したものです。

マイナス要因としては、資源価格高騰による物価上昇の影響を受けて、原材料費・輸送費、経費等でマイナス20億円となりました。

この20億円の中には中国子会社で発生した不正費用の4億円が含まれており、費用から控除されております。

経費の内訳といたしましては、持続的成長のための労務費の増加、生産性向上と業務効率化を目的としたDX投資等の諸経費の増加の合計11億円となっております。

一方プラス要因としては、操業度による増益、合理化、変動対応で32億円を挽回し、前年度から11億円の増益を達成しております。

## 2. 2025年3月期実績

(単位：百万円)

	2024年3月期 実績	2025年3月期 実績	前年増減額
現金及び預金	12,011	12,422	411
受取債権	20,591	20,211	△ 380
棚卸資産	11,427	11,562	134
その他流動資産	1,686	1,401	△ 285
流動資産計	45,718	45,597	△ 120
有形固定資産	26,695	29,000	2,304
その他固定資産	3,619	4,804	1,184
固定資産計	30,315	33,804	3,488
資産計	76,033	79,402	3,368
借入金	11,525	12,552	1,027
支払債務	12,330	9,527	△ 2,803
その他流動固定負債	10,167	11,385	1,218
負債計	34,023	33,465	△ 557
株主資本計	34,780	36,592	1,811
非支配持分	2,472	2,662	189
その他	4,757	6,682	1,925
純資産計	42,010	45,936	3,926
負債・純資産計	76,033	79,402	3,368

	2024年3月期 実績	2025年3月期 実績
税前利益	4,093	4,453
減価償却費	4,653	5,038
売上債権の増(△)減(+)	△ 122	1,375
棚卸資産の増(△)減(+)	122	268
仕入債務の増(+ )減(△)	213	△ 3,120
その他	△ 118	△ 1,383
営業活動によるC F	8,843	6,631
有形固定資産の取得	△ 4,027	△ 5,801
その他	△ 438	△ 33
投資活動によるC F	△ 4,466	△ 5,835
借入れによる収入	2,055	3,859
借入金の返済による支出	△ 3,934	△ 3,248
その他	△ 902	△ 1,251
財務活動によるC F	△ 2,781	△ 640
フリー・キャッシュ・フロー	4,377	796

- 前期と比較し円安下での為替換算の影響や固定資産の取得により資産増加
- 前期末が金融機関休日のため、未決済の支払債務が含まれており、前期比で減少

- 有形固定資産の取得による積極的な投資
- 仕入債務の減少は前期末の金融機関休日によるもので影響は一時的

財務体質の状況を、バランスシートとキャッシュフローで見ると、ご覧の通りとなります。

バランスシートは、円安下で総資産が増加しておりますが、「新中期経営計画2026」の中の、「既存事業の強化」にて、強い成長地域への拡販として、インドにおける技術・生産体制強化等への積極的な投資を実施しております。

### 3. 2026年3月期業績予想

---

続きましてここからは、2026年3月期の業績予想についてご説明いたします。

### 3. 2026年3月期業績予想

#### 業績予想（連結）

（単位：百万円）

	2025年	2026年	前年増減額	前年増減率
	3月期	3月期		
	実績	予想		
売上高	89,657	<b>88,000</b>	△1,657	△1.8%
営業利益 (売上高対営業利益率)	4,721 (5.3%)	<b>5,000</b> (5.7%)	+279 (+0.4pp)	<b>+5.9%</b>
経常利益 (売上高対経常利益率)	4,569 (5.1%)	<b>5,000</b> (5.7%)	+431 (+0.6pp)	<b>+9.4%</b>
当期純利益 (売上高対当期純利益率)	2,931 (3.3%)	<b>3,500</b> (4.0%)	+569 (+0.7pp)	<b>+19.4%</b>

※pp=パーセンテージポイント

**為替影響等を背景に売上減を見込む中、合理化や費用削減を進め、増益を計画**

2025年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム:5185) 2025年5月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

当期の業績予想は、売上高880億円、営業利益50億円、経常利益50億円、当期純利益35億円を計画しております。

国際情勢や物価上昇、金融資本市場の変動リスク等が予想されますが、売上高については、自動車メーカーの受注の回復や拡販努力により、受注量は増加するものの、為替の影響で減収の予想となります。

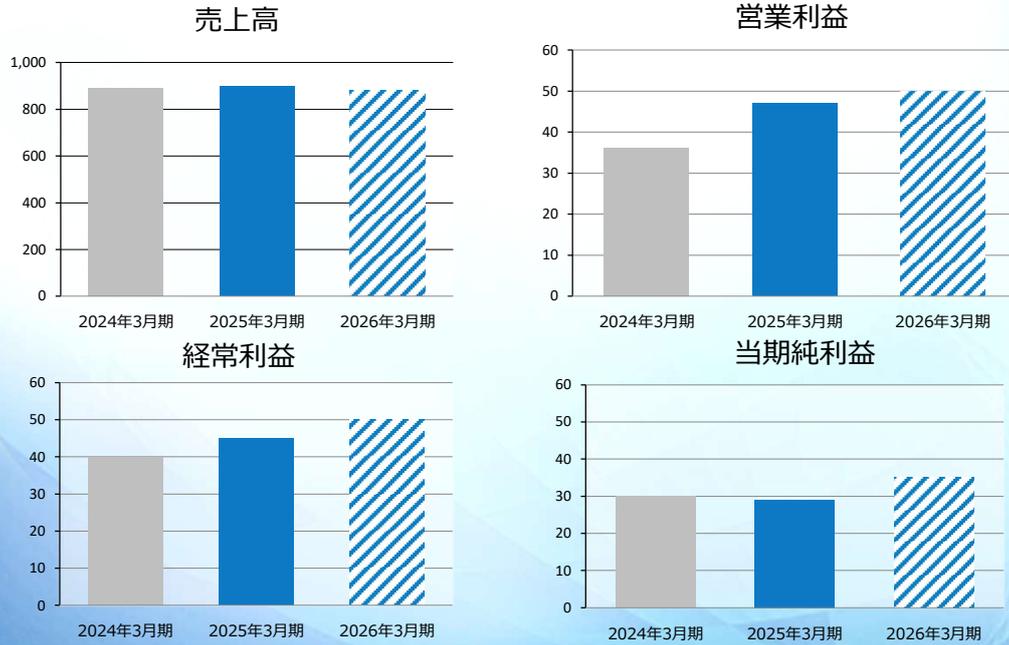
営業利益については、合理化、原材料価格等の変動対応活動をやりきることで増益を実現してまいります。

なお、投資金額については76億円を予定しております。

### 3. 2026年3月期業績予想

予想推移 (連結)

(単位: 億円)



2025年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム:5185) 2025年5月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

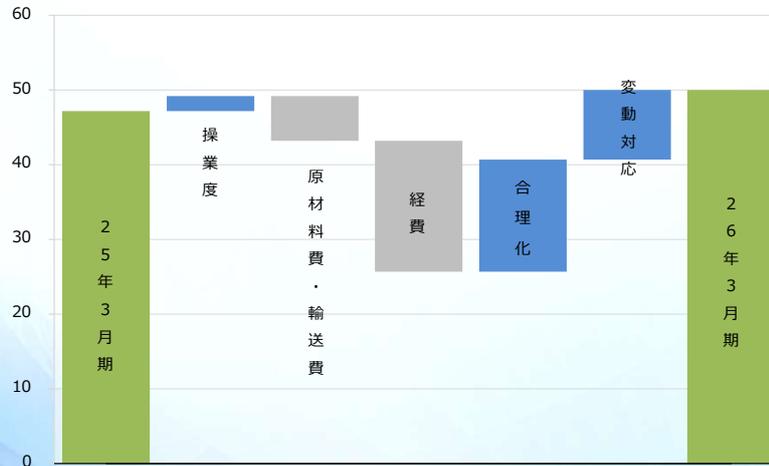
このグラフは、過去3年間の業績推移を表したものです。

2026年3月期の売上高については、インダストリアル関連や、CASE関連等の拡販努力、自動車メーカーの受注の回復により、受注量は増加するものの、為替の影響で減収の予想となりますが、ご覧の通り、損益面につきましては増益基調を継続してまいります。

### 3. 2026年3月期業績予想

差異要因\_連結営業利益（前年比）

（単位：億円）



2025年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム:5185) 2025年5月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

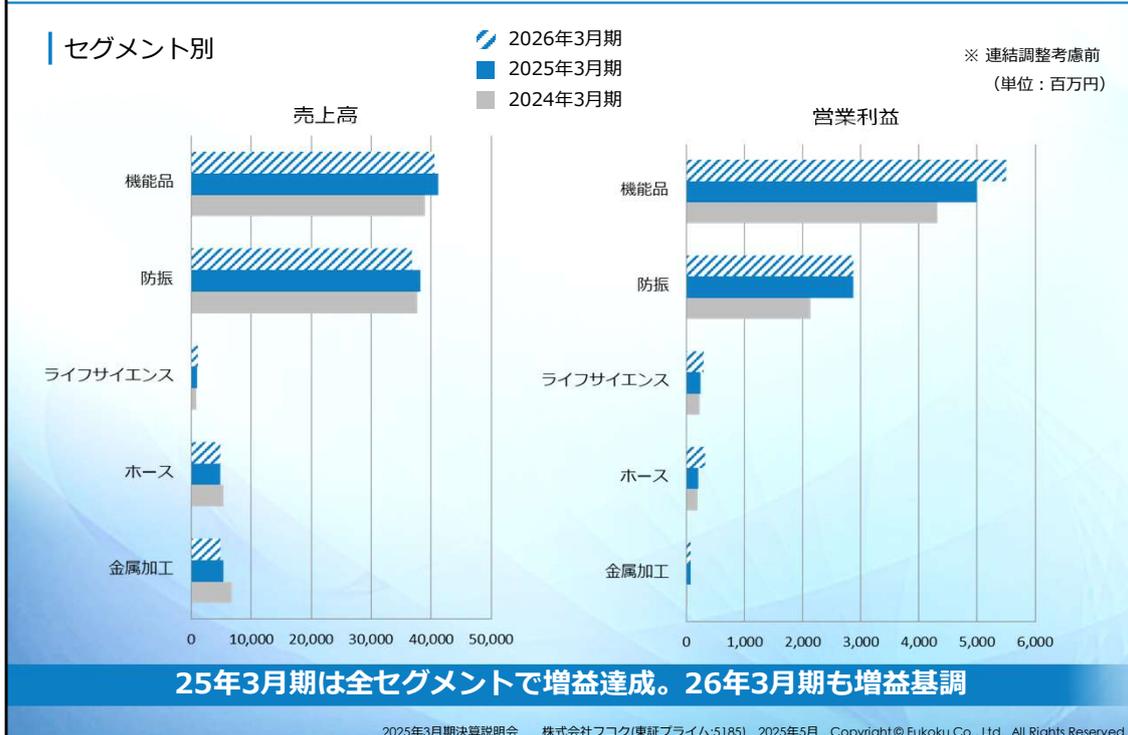
このグラフは、連結営業利益の対前年比の増減を要因別に示したものです。  
2026年3月期は、合理化、変動対応により営業利益増を計画しております。

## 4. セグメント別・地域別の状況

---

次に、セグメント別・地域別の状況について、ご説明いたします。

#### 4. セグメント別・地域別の状況



まず、セグメント別の状況です。

このグラフは、2024年3月期及び2025年3月期の実績、そして2026年3月期の計画が、推移としてわかるように表しています。

上から順に、機能品・防振・ライフサイエンス・ホース・金属加工と、5つのセグメントで構成されています。

ご覧の通り、2025年3月期は全てのセグメントにおいて営業増益となりました。

機能品事業につきましては、

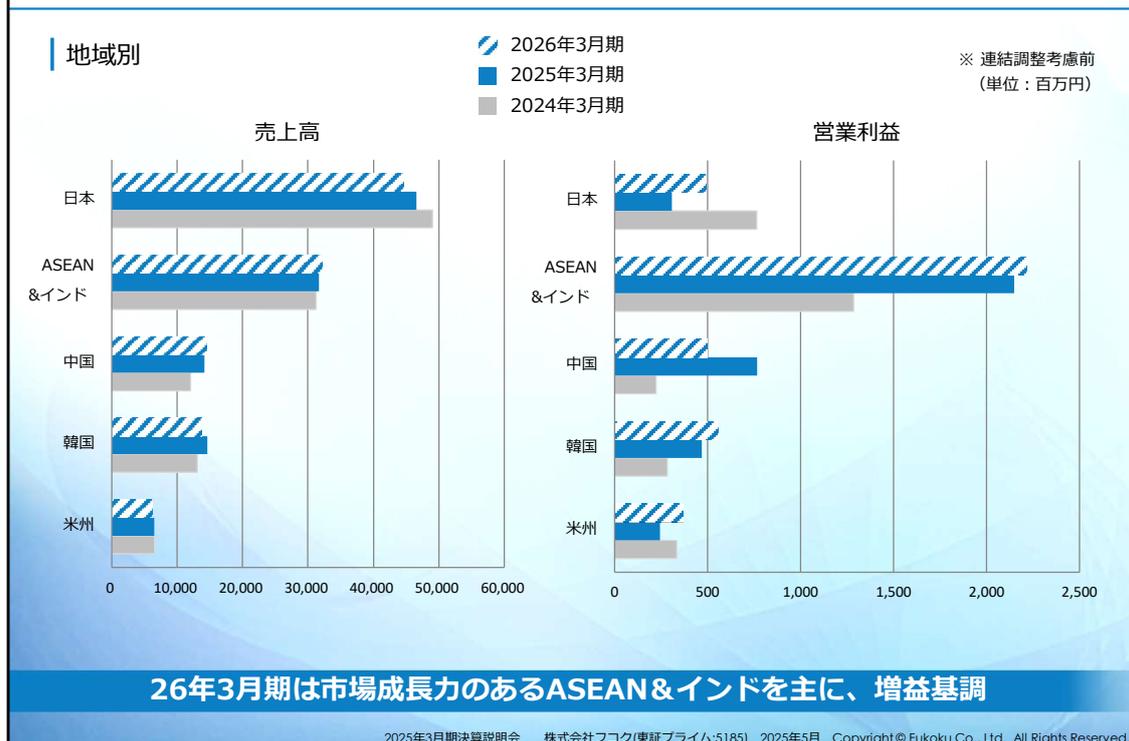
韓国EV向け製品、中国国内向け機能品の拡販及び、合理化や売価反映等により、増収増益となりました。

防振事業につきましても、

韓国にて北米向けダンパーの売上増、インドにて防振製品の受注増加、中国国内メーカー向けHEV増加及び、合理化や売価反映等により、増収増益となりました。

2026年3月期も、前年に引き続き増益基調となります。

#### 4. セグメント別・地域別の状況



次は、地域別の状況です。セグメント状況と同様に年度ごとの推移で示しています。ご覧の通り、2025年3月期も、全地域において黒字化を実現いたしました。

日本につきましては、2025年3月期は、採算性向上のため非採算部品の事業縮小に努めていること、日系自動車メーカーの認証問題等により減収となりました。原材料高騰の影響を売価反映や合理化、採算改善活動を進めたものの減益となりました。さらなる売価反映や合理化を進め増益を目指します。

次に、当社グループの重点地域であるアセアン・インド地域につきましては、メイン拠点であるタイ主力工場にて、歩留まり改善、不良低減等の変動費削減、使用エネルギーの転換による固定費削減が大幅に利益に寄与し、増益となりました。また、需要が好調なインドでは営業所設置による拡販活動、鋳物工場の安定稼働による原価低減、テクニカルセンター設置による研究開発活動強化、他社との業務提携等により、確実に利益を増やしてまいります。

中国につきましては、中国経済の低迷や、中国市場における日系自動車メーカーの需要の伸び悩みの影響を受けましたが、中国メーカー向け機能品製品の販売が伸長したこと、及びグローバルでの最適地生産、省人化、歩留まり向上などの合理化対策が奏功し、売上・利益ともに前年を上回りました。

なお、冒頭ご説明しました連結子会社における従業員が不正を行った関係で、2025年3月期の営業利益において4.2億円ほど損益が良化しています。2026年3月期の計画においては、それを控除すると実質的には増益となります。引き続き、現地拡販を進めてまいります。

韓国につきましては、米国向けの需要が好調であったこと、EV向け製品量産化、また、為替の影響を受けて増収増益となりました。

引き続き、EV向け製品等の拡販活動を進めてまいります。

米州につきましては、グローバル最適地生産や合理化による改善努力などを進めたものの、プロダクトミックスの影響により減収減益となりました。さらなる売価反映や合理化を進め増益を目指します。

これらのことから、2026年3月期は、アセアン・インドを主として増益基調となります。

## 5. 株主還元

---

続きましてここからは、株主還元について、ご説明いたします。

## 5. 株主還元

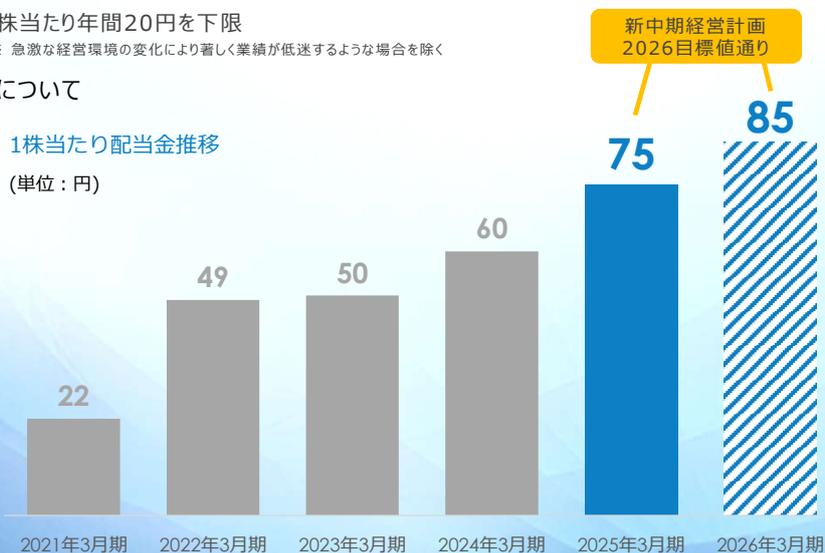
### 株主還元の考え方（配当政策の基本方針）

- 連結配当性向30%を目安とした安定配当を継続
- 1株当たり年間20円を下限  
※ 急激な経営環境の変化により著しく業績が低迷するような場合を除く

### 配当金について

#### 1株当たり配当金推移

(単位：円)



2025年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム:5185) 2025年5月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

配当政策につきましては、連結配当性向30%を目安に、安定配当を継続することを基本方針と考えております。

これに基づき2025年3月期は、期末配当金37.5円に中間配当金37.5円と合わせた年間配当金を75円といたしました。

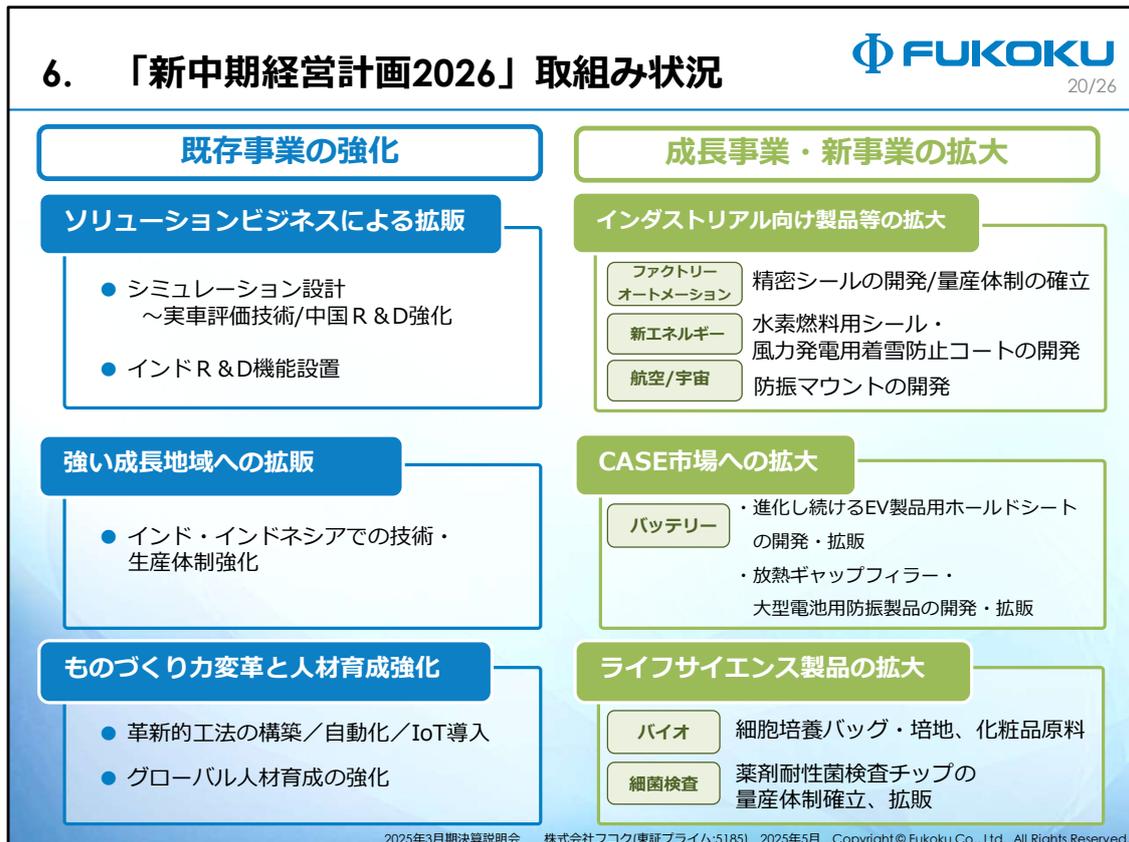
また、2026年3月期の年間配当金は、「新中期経営計画2026」の目標値通り、1株当たり85円を計画しております。

## 6. 「新中期経営計画2026」取組み状況

---

続きましてここからは、「新中期経営計画2026」の取組み状況につきましてご説明いたします。

## 6. 「新中期経営計画2026」取組み状況



こちらは、「新中期経営計画2026」を達成するための方策となります。

今回は、「既存事業の強化」にて、ソリューションビジネスによる拡販と、強い成長地域への拡販としてインドにおける技術・生産体制強化の取組み状況をご説明いたします。

続いて「成長事業・新事業の拡大」にて、インダストリアル向け製品、CASE市場等への拡大、今後、特に成長が見込める「ライフサイエンス製品の拡大」についての取組み状況を説明させていただきます。

## 6. 「新中期経営計画2026」取組み状況

### 既存事業の強化 – ソリューションビジネスによる拡販

従来

ワイパー事業では顧客からの高い払拭性能要求に応えるためラバーの最適形状を提案

ソリューションビジネス力強化

中国にテクニカルセンター設立

実験施設の拡充



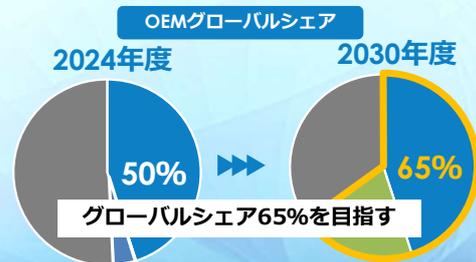
現在

ラバーの最適な動きを科学し、その動きに影響を与えるシステム側の構成部品の設計仕様までを提案

**= ワイパーシステム開発期間の大幅な短縮を実現**

顧客の拡販に貢献

より多くの車種の受注を獲得  
中国市場における拡販に成功  
EV市場での拡販を推進中



2025年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム:5185) 2025年5月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

既存事業の強化については、ソリューションビジネスによる拡販を進めています。

例えばワイパー事業では、従来、お客様からの高い払拭性能要求に応えるためラバーの最適形状を提案してきました。

これに加えて、中国でのR&Dの強化と日本での実験施設の拡充などを通して、ソリューションビジネス力を強化しました。

これにより現在は、ラバーの最適な動きを科学し、その動きに影響を与えるシステム側の構成部品の設計仕様まで提案できるようになり、ワイパーシステムの開発期間の大幅短縮を実現しています。

結果として、お客様の拡販に貢献し、短期間により多くの車種を受注できるようになりました。

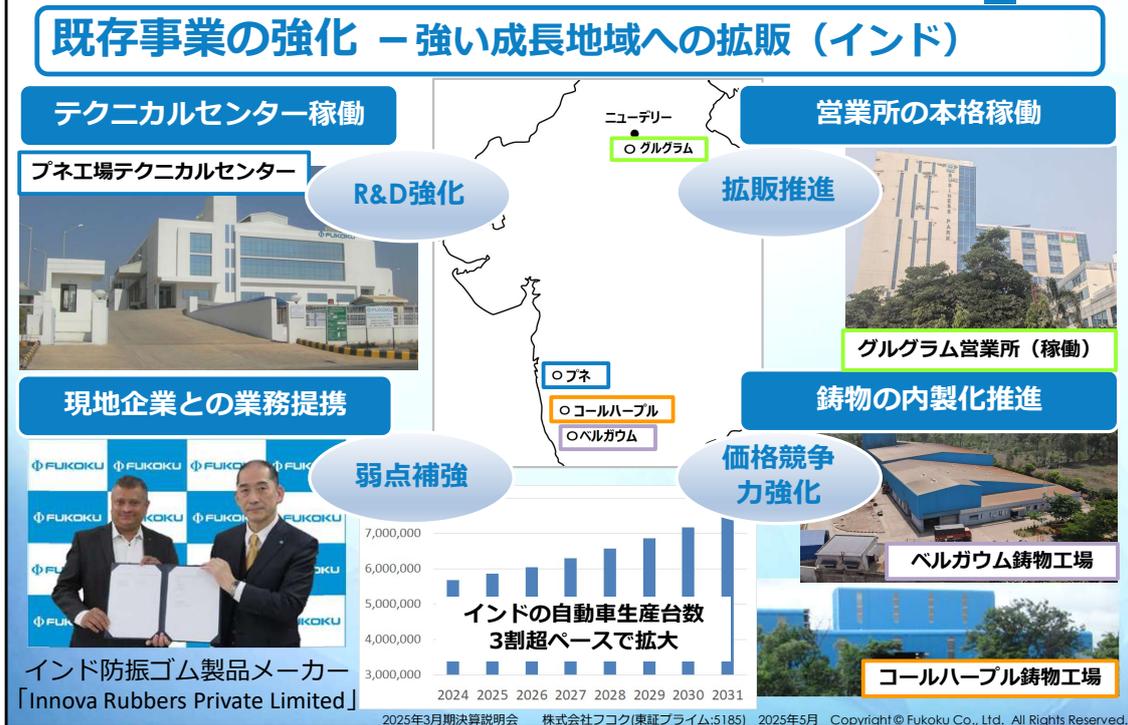
中国市場における拡販にも成功しており、EV市場での拡販も推進中です。

フコクはワイパー業界のリーディングカンパニーとして、お客様を当社の技術でご支援し、ワイパー業界全体に貢献していくことを目指しています。

OEM市場でのグローバルシェアは2022年度に45%でしたが現在50%程度まで上昇しています。

2030年には65%を確保したいと考えています。

## 6. 「新中期経営計画2026」取組み状況



強い成長地域への拡販としては、インドに注力しています。

防振製品の拡販に向けては、プネ工場にテクニカルセンターを立上げ、若手技術者の追加派遣も検討し、R&Dの強化を進めています。

現地インド企業との業務提携も行い、弱点の補強も進めています。

主要顧客に近いグルグラムという都市では、営業所を本格稼働させ、顧客対応の迅速化も図っています。

また、ダンパー事業では鋳物工場を増設して内製化を進め、価格競争力の向上も行っています。

今後、さらなる成長が期待できるマーケットで、着実に基盤整備を行い、拡販に向けて取り組んでまいります。

## 6. 「新中期経営計画2026」取組み状況



続いて、「成長事業・新事業の拡大」について説明致します。

宇宙分野では、当社の衛星用アイソレータが「だいち4号」に採用されました。ファクトリーオートメーションでは、産業機械用精密シール製品の量産が開始となりました。

また、新エネルギー関連では、風力発電の風車向けとして、着氷防止コートの開発をおこなっており、航空分野では、ジェットエンジン向けの製品が量産開始となっています。

農業機械の電動化への貢献として、バッテリー保持機構の開発に取り組んでいます。

CASE市場としては、放熱ギャップフィラーが、韓国メーカーに採用されて量産立ち上げとなっており、今後他社への拡販を目指しています。

電気自動車への転換の見直し、半導体需要もまだ十分な回復には至っておらず、厳しい環境ではありますが、自動車で培った技術により提案するソリューションビジネスに取り組み、今後も成長事業・新事業の拡大に取り組んでまいります。

## 6. 「新中期経営計画2026」取組み状況

### 成長事業・新事業の拡大

#### ライフサイエンス製品の拡大

**バイオ** 細胞別培地、用途別バッグの拡充推進

iPS細胞での培養開発に使用するSphereRing®を開発

#### アカデミアとの共同研究推進

大阪大学、金沢医科大学と共同研究

中国拡販準備中



細胞培養培地



細胞培養バッグ



SphereRing® (スフェアリング)



**細菌検査** 薬剤耐性菌検査チップの量産体制確立、拡販

腸内細菌の検査効率を飛躍的に向上

保険適用取得、医療現場への本格展開を目指す

検査チップ



続いて、「成長事業・新事業の拡大」での「ライフサイエンス製品の拡大」について取り組みをご説明させていただきます。

バイオ製品では、当社の強みであるリンパ球用培地と間葉系幹細胞培地の拡大に軸足を置き、培地開発力の強化に取り組んでおります。  
当社コア技術を生かし、細胞の凝集体をつくる容器であるスフェアリングを開発し、iPS細胞での培養開発に使用されております。  
同時に日本国内だけではなく、世界、特に中国での販売を拡大出来るように市場調査等を実施しております。

さらに、アカデミアとの共同研究を推進するため、大阪大学、金沢医科大学との共同研究で幹細胞の大量培養システム化の構築等を実施しております。

次に、細菌検査用チップです。薬剤耐性菌検査チップは、腸内細菌を対象に通常16時間から24時間かかる検査を3時間に短縮する細菌検査用チップです。

薬剤耐性菌かどうかを判定する製品と細菌感染症の原因菌に有効な処方薬を推定する製品の2つがあり、2027年度の保険適用を目指して申請中で、医療現場への本格展開と事業拡大を目指しています。



フコクは、常に挑戦を続け、時代の変化に柔軟に対応し、  
サステナブルな社会の実現に貢献できる「心から愛される企業」を目指します。  
今後ともご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。  
以上で、終了させていただきます。本日は誠にありがとうございました。



## Yes, We Do!

### 注意事項

- ◆ 本資料には、株式会社フコクおよびそのグループ会社の戦略、経営計画等の将来予測に関する記述を含んでいます。本資料における記述のうち、過去又は現在の事実に関するもの以外は、将来予測に関する記述に該当します。これら将来予測に関する記述は、現時点において入手可能な情報に鑑み株式会社フコクおよびそのグループの仮定および判断に基づくものであり、その性質上、これらにはリスクや不確実性を内在しております。従って、当社を取り巻く事業環境、将来の業績、経営結果等と異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。
- ◆ 本資料に記載されている将来予測に関する記述は、本資料作成日現在時点のものであり、当社はそれ以降に判明した新たな情報や将来の事象により、本資料に掲載された情報を最新のものに変更する義務を負うものではありません。

2025年5月28日 株式会社フコク

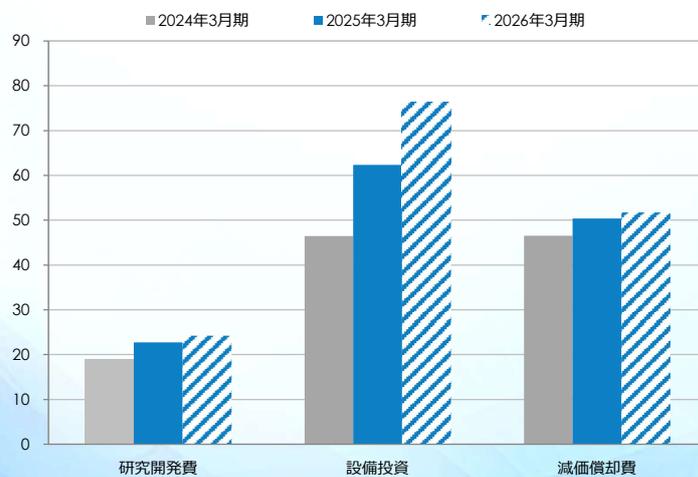
## Appendix

---

# 1. 研究開発費、設備投資、減価償却費

研究開発費、設備投資、減価償却費

(単位：億円)



## 2. 会社概要

### 会社概要

Φ FUKOKU 株式会社 フコク

事業概要	ゴム製品、金属・合成樹脂製品、 OA・電子機器・医療用具の製造販売 等
証券コード	東京証券取引所 プライム市場 (5185)
設立	1953年
本店	埼玉県上尾市
代表者	代表取締役社長 大城 郁男
従業員数	連結 4,523名、単体 1,163名 (※)
株主数	19,236人 (※)
拠点・ 関係会社	・ フコク単体 : 5工場、3事業所 ・ 関係会社 - 連結子会社 : 国内2社、海外14社 - 持分法適用会社 : 海外1社

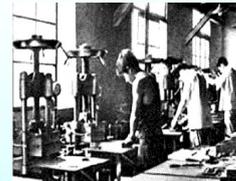


※ 2025年3月31日現在

## 2. 会社概要

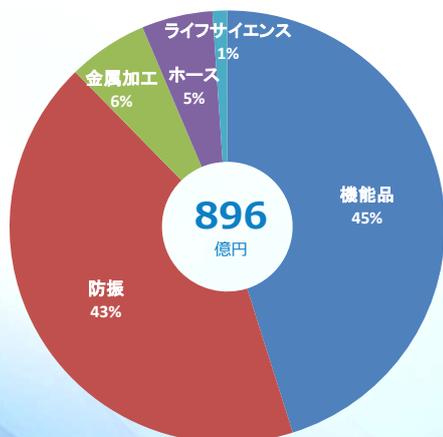
### 沿革

1953年	12月	創業者の河本 栄一が、 富国ゴム工業株式会社を設立
1956年	4月	ワイパーブレードラバーの技術開発に成功
1972年	9月	末吉工業株式会社に資本参加
1983年	1月	タイ国バンコク市に合弁会社タイフコク株式会社設立
1986年	1月	株式会社フコクに商号変更
1994年	10月	日本証券業協会に株式を店頭登録
1996年	2月	株式会社東京ゴム製作所に資本参加
2004年	3月	東京証券取引所 市場第二部に上場
2005年	3月	東京証券取引所 市場第一部に上場
2020年	6月	経済産業省より『2020年版グローバルニッチトップ 企業100選』に当社が選定
2022年	4月	東京証券取引所 プライム市場へ移行
2023年	6月	大城 郁男が代表取締役社長に就任



## 2. 会社概要

### 事業別売上（2025年3月期 連結）



#### 機能品



#### 防振



#### 金属加工



#### ホース



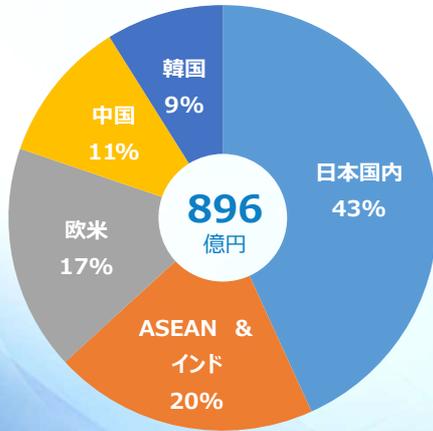
#### ライフサイエンス



## 2. 会社概要

地域別売上（2025年3月期 連結）

グローバルネットワーク

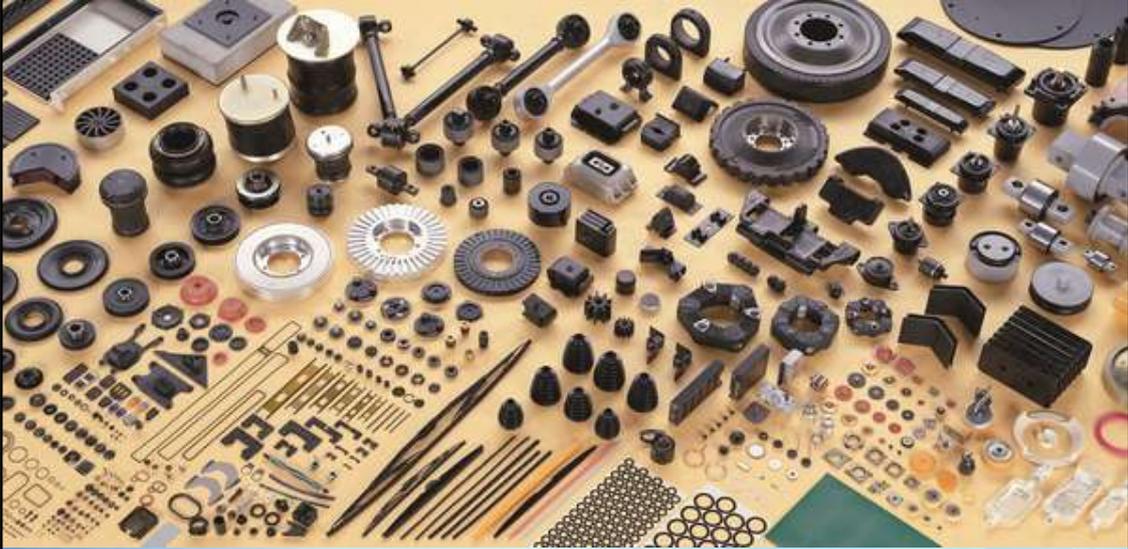


※顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております

 日本 1953年	 インドネシア 1997年	 インド 2010年
 タイ 1983年	 アメリカ 2001年	 ベトナム 2011年
 韓国 1987年	 中国 2001年	 メキシコ 2014年

## 2. 会社概要

当社の特徴：多種多様な製品を生産販売



## 2. 会社概要

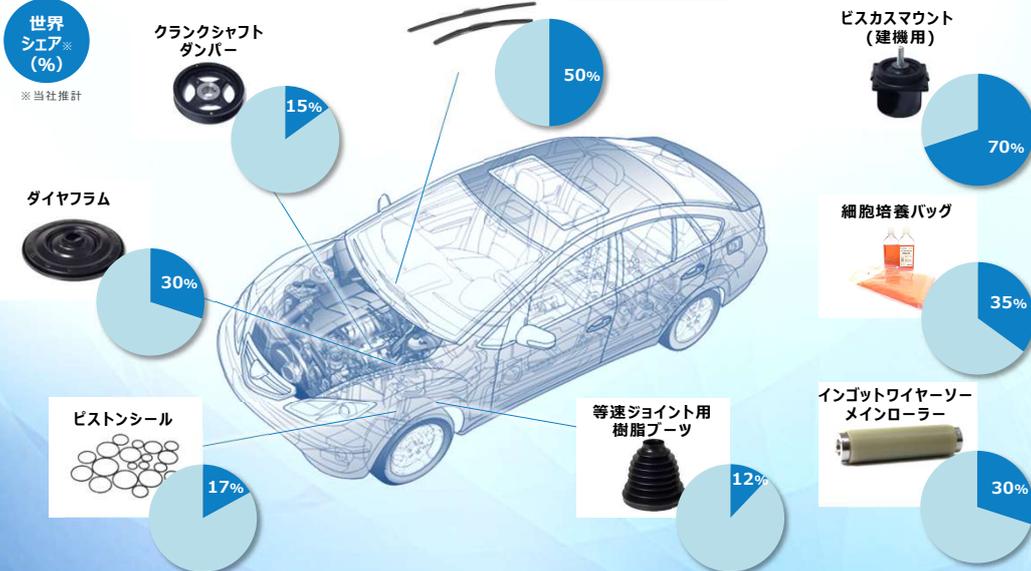
### 高シェア製品

### 自動車分野

ワイパーブレード  
ラバー

国内シェア  
90%以上

### 他分野



ニッチな分野で高シェア製品を数多く輩出

## 2. 会社概要

表彰関連：グローバルニッチトップ企業100選  
(2020年6月)

経済産業省より、国際市場開拓に取り組む企業のうち  
ニッチ分野で高シェアを確保し良好な経営を  
実践する企業として

「2020年版経済産業省  
グローバルニッチトップ企業100選」に  
選ばれました！

以下審査基準を基に、外部有識者で構成する選定評価委員会の審議を経て選定。

1. 世界シェアと利益の両立
2. 技術の独自性と自立性
3. サプライチェーン上の重要性

